

# ファッション都市の 舞台装置を創る

日本の洋家具の草分け神戸の家具

永田良一郎

△永田良介商店社長▽

高野 敬朗

△神戸家具社長▽

小泉 進吉

△入船社長▽

吉田

俊夫

△メーブル不二屋専務▽

河南

忠義

△河南工業社常務▽

## ★ヨーロッパ家具の伝統を受けつぐ神戸の家具

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、“神戸らしさ”の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに色どり、楽しくしていくことは、まさに“文化開発”そのものではなからうか。

“ファッション都市・神戸”はそのような環境のなかで息づいている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は神戸の洋家具関係の方々にお集りいただき神戸の家具の歴史、特質、現状の問題点、さらに、ファッション都市づくりのなかでの位置づけ、今後の展望などについてお話しをお願いした。

永田 神戸の家具の歴史には二つの流れがあったと思いますね。一つは、居留地があった関係でヨーロッパからそのまま本物が入って来たけれど、外国人が本国へ帰るときに置いて行った家具を売買した、いわゆる古道具屋式のものから出発したのと、もう一つは、船大工ですね。明治になって西洋の造船技術が入って来て、これまでの船大工の仕事が少なくなった関係で、根っから曲線的な仕事をやっていたこともあって、居留地の家具の足りない分を補うような形で家具を手掛け始めたという、この二つが相まって神戸の家具が生まれて来た、と聞いています。どちらかというトラディショナルなものが得意ですね。

吉田 それまでの日本にある家具はどちらかといえば直線的だったものが、かんななどを船大工として使用出来

るということで、曲線的な美というものが生み出されたようです。

**高野** 昔は家具といっても桐ダンス、水屋、囲炉裏ぐらいい、それと座敷机という座敷用の家具しかなかったですね。

**河南** 洋家具の歴史は、神戸や横浜のように向こうの輸入製品とか船の家具修理とかと一番よく接触するところから始っていますね。そういうことでは長崎もそうでしょうが、歴史が古いのは神戸、横浜ですね。

**小泉** 船の内装とか家具とかの影響が神戸が一番強いですね。それと、居留地があった関係で、早くから洋風の家具が入って来て、神戸では洋風の家具をまず咀嚼したということですね。

**永田** 戦前でも私のところはマニラへ輸出したこともありまして、神戸ではどんな家具でもつくっていましたね。  
**高野** 家庭の洋風化が始って洋服ダンスが使われ出したのは大正時代からでしょうね。

**永田** 明治時代までは役所や官庁、会社ぐらいでしょうね。いわゆる洋家具を使っていたのは。

**高野** 洋家具を家に置くというのは昭和も大分こっちに來てからでしょうね。応接間で椅子を使い出したのもそれ位でしょうね。

**永田** 一般家庭に洋家具があったといっても洋間を一つだけとってつけたみたいで、そこへ使いましめない応接セットを一組も置いてあったらいい方だったんじゃないで



永田良一郎さん

すか。比較的阪神間では金持ちクラスが多かったのだ、そういう意味では洋式の生活というのは早かったのと同じです。今でも私のところが大正の初めに納めた椅子を使われているところがありますね。

**高野** 一般に入口に洋間のついた家が出來たのは昭和からこっちですよ。余つ程の金持ちでない以上は、普通の家では洋間はないですね。だから、座敷にジュエータンを敷いて、その上に応接セットを置いていましたね。

**河南** うちには、昭和の初期の頃の、みんな背広を着て椅子に腰をかけている写真もあるんですけど、一般家庭ではそうでもなかったようですね。

**永田** 戦前に椅子、テーブルで食事をしていた家庭は数えるほどしかなかったですね。大多数の家庭では卓袱台で食事をしていましたね。

**小泉** 私のところは滋賀県の出身で、神戸へ來たのはおやじの代の明治の中頃です。滋賀の家の倉をよく見たのですが、洋家具は殆んどないですね。古いソファなんかありました。もちろん洋式の応接室なんかなかったし昭和になって畳の上にジュエータンを敷いて椅子らしきものがあつたのは覚えてます。神戸の家は昭和の初めにはテーブルと椅子で食事をしていましたね。それが大部分の家であつたかどうかは分りませんが……。

**高野** 洋家具をつくつた店が何軒あつたか、職人が何人いたかで、どれほどの洋家具が家庭に入っていたかが分りますが、恐らく少なかったでしょうね。

**永田** 恐らく明治時代の洋家具の需要は役所とか会社、それと外人関係が大部分ですね。日露戦争が終わってからカラフトへ持って行く家具を神戸でつくらせたという記録があるんですね。洋家具をつくっていたところが日本で少なかったんですね。大正から戦前にかけて上流階級が神戸の家具を維持してくれたということですね。一般ではそこまで行てなかつたですね。生活が洋式化されたのは戦後ですね。神戸の家具だけではなく、一般に家具の需要が増えたわけですね。戦後、底辺が増えたんで

## ★手づくりを守り続ける

永田 戦前と戦後とで私の店では売っているものは余り変ってないんですが、戦後、需要層が広がったことは事実ですね。

河南 戦後、根本的に変わったのは、広島など他府県で量産の品物でもって安くつくって行こうというやり方が出て来たことですが、神戸は注文に応じて、需要に応じてくるやり方で来ているわけです。量産して百貨店などに流すという方向じゃなしに、いわゆる受注生産のやり方が神戸の家具の一番大きな特色じゃないですか。量産と違って、一つ一つ愛情をこめてつくっているの、持ち味が一味違うというところに神戸の家具の自負とか誇りがあるわけです。

永田 量産品が出たしたのは昭和二十七、八年頃ですね。というのは進駐軍からの需要で、大量生産をやらざるを得なかったわけです。それが米軍の引き上げなどで需要が減って来たのですが、それだけの設備をもっているの、国内の需要にそれをふり向けて大量生産方式で始めたんでしょね。神戸は特殊なというか、もう少し上のレベルの需要、それは戦前からあったものですが、それを守り続けていたのが特産のようにして残った。頑固に昔のものを守り続けていたから生き残ったんですね。それにはそれだけ、京阪神に家具を買ってくれる階層があったということですね。

高野 既成品で応接セットらしいものが出来たのはごく最近ですね。ヨーロッパの家具を輸入し出したのは昭和四十年からこちです。それを真似してつくりました。たんですね。物品税のため価格が高くなり、一般には売れないので日本では思い切ったものをようつくらなかつたんですね。最近が高いものも売れるようになったので、ヨーロッパに負けないようなものをつくっていますけどね。そういうように業界が変わって来たなかで神戸の家具は厳然として昔の状態を維持しているわけですね。



高野 敬朗さん

す。  
高野 椅子が大衆化したのは最近ですよ。応接セットと食堂が普及してからです。戦後、食堂の普及が一番早かったですけどね。

小泉 初期の洋家具は輸入されていたのですか。

永田 いや、輸入じゃなしに、いわゆる古道具というか洋家具が日本になかったので自国から持ってきたんですが、それを処分して帰ったので、それを引き受けて一般に売っていたんですね。それで船大工の技術でもって椅子なんかを見よう真似ようでつくって行っただけですね。今、年代が判っているの、一番古いのは明治一八年につくった、製作者の名前が入っている椅子が垂水の神戸木工センターにありますね。桜を使っているんですが完全に向こうのコピーですね。

河南 初めの頃は全部向こうの模写というか、コピーですね。



小泉 進吉さん





河南 忠義さん

永田 神戸では昭和二十八年に第一回の戦後の新作発表展示会を大丸でやっていますね。十年ほど前まで、十五、六回続いていましたが、神戸の新作発表会はその家具の産地のやっていると違って、こんなものが出来るのだという腕自慢大会のようなもので、そのときにつくた新作を大量生産するというのではなくて、各店や各工場の自慢大会みたいなものでしたね。

小泉 神戸の洋家具は歴史があるのですが、事情は横浜と似ているわけですね。居留地があつて……。横浜には古い家具はないのですか。

永田 それは居留地の性格によると思いますよ。横浜はアメリカ向けに門戸を開いていた感じで、アメリカ航路の終着地ですね。神戸の場合はヨーロッパ航路の終着地です。だから居留地にいる外人も横浜はアメリカ人が多いし、神戸はヨーロッパ人の方が多かった。アメリカにはスタイリッシュな家具は余りなかったんですね。ヨー



吉田 俊夫さん

ロッパ人はまた古いものが好きですしね。神戸は洋家具については色んなものを見られたということでは有利だったんじゃないですか。

高野 横浜の家具は宣伝は盛んですが、大量生産ですね。神戸には大量生産をやつて全国に流しているのは少ないですね。

河南 神戸の家具屋といつても本当に神戸家具だけをつくつて売っているところは少ないですね。あとは折衷。たとえば産地物を扱い、百貨店のように大量に扱っているところが多いですね。純然たる神戸の家具を扱っているのは二十か三十ですね。

永田 店の数で二十、工場を入れて五、六十ですか。

高野 大体、規模が小さいですからね。今後、神戸の家具を維持する上においては大分考えないといけない点です。木工団地を中心に据えるとか、生産を増やして市場をもう少し広げることも必要ですね。ただ、機械化していなくて手づくりですからコストが高くなりますね。しかし、機械化してしまつと地方と変わらなくなつてしまふ。大量生産工場はつぶれるかも知れないが、職人が何人かでやっている手づくりの会社は絶対につぶれないと、ドイツで講演を聞いたんですが、ドイツにもそういう小規模の会社がたくさんありますね。

永田 パリにもありますし、イタリアにも神戸ぐらいの規模のものがあつてある町がありますね。デンマークの大きいところでも三、四十人ですね。扱う材料が木ということもあつて、合板は別としてソリッドを使つてやるとなると自づと限定があるのと違いますか。ですから今の神戸の行き方は間違つてないと思うんですが、技術がいつまで保存できるかを考えたら、現状では難しいと思いますね。

高野 ヨーロッパでも手づくりは神戸と同じじゃないですか。パリの家具屋でも三人、四人とか、多いところでも七人ぐらいですね。

永田 向こうはまだ徒弟制度というものが残っているの

で生きのびられると思いますが、日本の場合、それがくずれてしまつて月給取りになつて職人がいなくなつてしまつていますね。これを維持して行くことは並み大抵の努力では難しいと思いますね。

# ★神戸の家具の特色は塗装にある

小泉 家具屋という呼び名の意味が變つて来ていますでしょう。既成家具を売っている販売店と、家具だけでなしに内装をやっているところですね。私のところも家具屋といつていいのか、内装屋といつていいのか(笑)一概に家具屋といつても内容は變つて来ていると思います。

永田 戦前から神戸の家具屋は數物もカーテンも、リノリュームを敷いたりすることも普通やつていたんですけど、いわゆる裝飾屋というのは別にあったんですけど、殆どどの家具屋がそれをやっていましたね。よその町へ行くときとそうじゃなくてカーテン屋というのが別にいて家具屋は全然それにタッチしない。結局、神戸の場合は外人からそうすることを強制されたんですね。家具屋だったらインテリアやカーテンもやらないとダメだといわれてやらされたんだと思いますね。それがズツと続いていて家具屋はインテリアをやるのが当たり前だという考えをもっていましたね。

河南 今でもそうせざるを得ないんじゃないですか。家具だけやつております。トータルなインテリアは出来ませんというのでは仕事にならないですね。応接間が出来たらそこに家具だけ置かせて下さい。他は勝手にやつて下さいというのじゃ時代遅れだし、商売にならないですね。家具だけじゃなくカーテンから數物からみなデザインしましょうという時代になっていますね。インテリアの方向へ進んで当然だと思いますね。

永田 それは今の時代の話ですが、神戸では昔からそういうことをやっていました。ただ、この頃、インテリアという範囲が広がりますぐに少し漠然として来ましたね。

家具・室内裝飾までは一緒だと思いますけれど……。

高野 神戸の家具屋は大小は別としてすべて製作に關つて来ますでしよう。おやじさんが職人上がりだとかで、それだけにこなしやすいわけですね。地方では販売するだけの店が多く、造作屋が非常に少ないですね。あつたとしても最近出来たいわゆる内装屋ですね。大抵は家具を売るだけですね。

永田 神戸では自分のつくつた家具に愛着があつて、それにはこんなカーテンでないと合わないということ、内装までやらざるを得なくなつたんじゃないですか。

河南 器用なんですね。

小泉 やはり、つくるところから出発しているから基本的なものを会得していますね。

高野 ヨーロッパでは置いている商品で勝負しないですね。モデルを置いていて全部受注生産ですね。専門化していますね。それじゃなかったらスーパーストアとかね。

吉田 確かに向こうの小売店は神戸とよく似ていますね。高野 今後の問題はまず職人を養成しなければならいことでしょう。そこに大きな悩みがあるわけです。職人のなり手が少ないでしょう。

永田 現状を維持するのが精いっぱい、それも最大の努力を払つてですね。それと、神戸の家具はそこへ行けば全部見られるという一つの展示場があつてもいいと思いますね。木工団地のなかに今度展示場をつくつたんですが、ああいうものじゃなしに、一つのビルに入つて、そのビルへ行けば全部が見られるというようですね。"神戸家具"といつてもそれは神戸の家具屋がいつているだけで、買う方としてはその意識がないでしようね。家具屋仲間では神戸の洋家具はいいということが常識になっていますが、一般の消費者のなかでは果して神戸家具というものが、松本の民芸家具などのように行き渡つていゝるだらうかというところではないような気がしますね。

高野 業界でも四、五年前までは相当神戸の家具を真似していますね。それに近いものをデザインして、大衆化

していますね。いまだにメーカーが習いたいのは塗装技術らしいですね。現在の地方の家具屋は戦後派が多いしまた戦前派がいても桐ダンスぐらいで洋家具には経験がないから、神戸の家具の塗装技術はみな高く評価して真似したいらしいけれど、手間がかかって高くつくのでようやくやらないらしいですね。(笑)

永田 大量生産には向かないやり方ですからね。技術的にみたら、たとえば新しい接着の技術なんかは地方の方が上ですよ。

高野 神戸の家具屋は、他の製法を知っているわけではなし、また、機械化なんか出来ませんから、今のやり方を続けて行かざるを得ないですね。ただ、後継者の育成が問題ですね。

吉田 一番困るのは、やはり塗装の問題でしょうね。この後継者が少なくなっているのではないかと思いますね。木工セクターのなかでそれをついにまとめて出来る設備があれば一番いいんですがね。

永田 同じ神戸のメーカーでも家具屋によって塗装のやり方が全部違うからまとめるといっても難しいですね。それが、また、神戸の家具のいいところでもあり、大きくならない欠点でもありますね。家業にとどまっていって企業にならないですからね。塗装も見た目は同じようですが、店によって多少違いますしね。

高野 それぞれ秘訣をもっていて教えない。(笑)

永田 塗りをみたらこの家具が分りますね。そういう意味では、今、後継者難だといっていますね、職人的な気質が一番残っているのは神戸ですね。だから、それを何とか維持して行かないといけないし、もう少し体系づけて行くものが何かなかったらいいなと思いますね。テンデンバラバラでやってもダメですからね……。

高野 しかし、組織とか何とかという職人さんはいって来ませんね。一人ひとりの腕を生かして行くことを考えないと仕方がないですね。

永田 それでお互いいい意味での競争をして技術が向

上して行き、いい製品が出来ればそれでいいと思いますけどね。

#### ★家具づくりは町づくりにつながっている

永田 今、ファッション都市ということがいわれていますが、結局、都市は今後強烈な個性をもたないとうまく行かないだろうという発想があって、一方、知識集約型産業ということがいわれ出して、そこからファッション都市という構想が出て来たんでしょうね。

高野 神戸は地形にしても山があって、坂があって、海があって、一番ファッション化しやすいですね。また、現在そうなっているのと違いますか。

小泉 ファッション都市の基盤、雰囲気はありますね。

関東の若い女性でも、関西ではどこへ行きたいかと聞くと、倉敷か神戸だというそうですね。

高野 神戸ではショッピングが楽しめるらしいですね。

永田 関東の若い女性の方は関西へ来ると、京都で泊まり、買物だけ神戸へ来るんです。京都神と一口にいつてもそれぞれ特徴がありますね。京都には伝統的な工芸のファッションというか、着物とか西陣を中心としたファッションがあって然るべきだし、大阪はものすごいバイタリティをもっていて、マテリアル、原材料におけるファッションですね。神戸はというと土地柄が非常に明るくて、インターナショナルなファッション・シティというように、それぞれの特徴を生かしたファッション都市づくりは可能だと思いますね。そのうちでも神戸は一番アカ抜けがしていると思っていますが。

高野 神戸の雰囲気のように東京や地方から来る人はみな感心していますね。こういう雰囲気はどこにもないといっていますね。

吉田 確かに高速を降りて、フラワーロードを上がるとパッと山が見えて、環境はいいですね。

小泉 山手あたりにある異人館とか、ああいう雰囲気は神戸だけでしょうね。



河南 ただ、家具のファッション化はものすごくいいですね。家具はもって地道なものであり、それだけにいわゆる流行というものはないわけですね。

高野 神戸の家具自体がオーソドックスで、ファッション性があり、値打ちがあるんですから、今さらその伝統を変える必要はありませんね。

永田 世間的なファッションで、手づくりブームとかいわれていますが、神戸が前からやっていたことに向こうから近づいて来たわけで、神戸のやり方は昔から何も変わっていないわけです。狭い意味の服飾的なファッションが神戸では非常にセンスがいいということなのでそれに似合う家具をつくって行かなければいけないということですね。家具は芝居の書き割り、舞台装置みたいなものですからね。だから雰囲気盛り上げるのは神戸の家具屋はうまいといえますね。

高野 それは内装的にですね。けれど、家具それ自体は変えるべきじゃないと思いますね。変えたら値打ちがなくなってしまう。

小泉 流行は追わない方がいいですね。

高野 ヨーロッパでもオーソドックスというか、ズツとそういう手づくりのものしかつくってないんですからね。向こうでも量産工場は目先を変えて色んなことをやっていますけれど、伝統的なもの、神戸の家具的なものはズツと残って来ているわけですからね。

河南 神戸の家具の値打ちは何だといったら、何十年も前につくった椅子やらテーブルを張り替えて永く使えることが誇りであり、また、自分の息子がのれん分けで家を出るときに、これはおじいさんの代から使っているのだといって譲ると喜んで出てくる。そういうことを聞くと、また誇りに思うという自負にありますから、ファッショ的な要素はあんまりないような気がするんですが。昔からもっているものを今、ファッションといひ誇りと思うことじゃないかと思えますね。

高野 だからこういう家具が好きならば、それを生かす

ような内装をしていたとき、部屋づくりをしていただということですね。お金のある人は先に家具を揃えるのじゃないですか。本当に考えている人は、自分の住む部屋から手掛けるのが本当だと思います。外観に合わせて行くのじゃないに、自分の書斎、寝室から家を考えて行くべきだと思いますね。

永田 こういう家具を置きたいからその部屋を考えてくれとかね。結局、家具から出発して家の内装、外装を考えて行く。また、それに耐えられるだけの家具をつくらないといけないわけですね。それをやるのが神戸の家具屋ともいえるし親から子へ伝わるような財産としての家具をつくるのが神戸の行き方であるということだと思いますね。だから人間の生活をより豊かにするのがファッションという意味からいえば、今のままで神戸家具がファッションの中心にあるともいえますね。

吉田 そうだと思います。これまで神戸の家具の伝統を守り続けて来た先輩の方々のいい仕事を今後もズツと受け継いで行かなければいけないと思いますね。

高野 結局、神戸の家具は変化なしに、デザインとか色を変えるとき、そんなことは関係なしに昔からの伝統をあくまで守って行くべきだと思いますね。デザインや色や材質を変えたら職人さんがついて行けないし、ついでいったとしてもその職人さんの技術を生かしては行けませんね。やはり伝統を守って行くべきでしょうね。

小泉 家具をつくることは町づくりにつながっていると思いますね。家具が部屋につながり、部屋が家につながり、家が町につながっているわけですから。神戸のファッション都市づくりのなかの一つの分野として家具も考えなければいけないと思いますね。それは、衣服とか、あらゆるもののファッションにつながって来ますし、そのなかの一環としての家具というものを考えないとダメですね。家具だけの問題ではないと思いますね。

(オリエンタルホテルにて)

### ウシオ工業㈱

取締役社長 牛 尾 吉 朗  
神戸市葺合区浜辺通 5 丁目 2 の 1  
神戸商工貿易センタービル 18 F  
T E L (078) 251-1651(代)

### 田崎真珠㈱

取締役社長 田 崎 俊 作  
神戸市葺合区旅塚通 6 の 3 の 10  
T E L (078) 231-3321

### オールスタイル㈱

取締役社長 川 上 勉  
神戸市生田区伊藤町 121  
T E L (078) 321-2111

### ㈱ワールド

会長 木 口 衛  
神戸市葺合区八幡通 3 丁目 1 の 12  
T E L (078) 251-5311

### カネボウベルエイシー㈱

取締役社長 稲 岡 必 三  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 43 番地  
T E L (078) 332-3155

### ㈱ベ ニ ヤ

取締役社長 松 谷 富士男  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 54  
T E L (078) 332-3155

### モロゾフ㈱

取締役社長 葛 野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町 6 丁目 11 番 19 号  
T E L (078) 851-1594

### 入 船㈱

取締役社長 小 泉 進 吉  
神戸市灘区新在家北町 1 丁目 1-19  
(阪神電鉄新在家南) プリコビル 3 F  
T E L (078) 851-3191

### 神戸地下街㈱

さんちかタウン・サンこうべ  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 1  
交通センタービル 8 F  
T E L (078) 391-4024(代)



キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の企画は以上9社の提供によるものです。



## 経済ポケット ジャーナル

### ★神戸オリジナルシューズ の展示会開催

六月二十四、五両日、「第21回ケミカルシューズ・ゴム製品見本市」(主催/神戸市、神戸市ゴム工業団体連合会)がサンボーホール、神戸市立中央体育館など三会場で開かれた。今回は三会場で二八五社がオリジナル製品を出品し、各会場とも新作が顔を揃えていたが生活文化につながる見本市としてみた場合、くらしに密着した生活ファッションとしてのシューズのあり方を前面に出しているメーカーが殆んどなかったことは惜しまれる。

一方、七月六、七両日、「第28回秋の神戸靴展」(主催/神戸靴メーカー協会―亀井芳勝会長)が、神戸国際会館五階ホールで開かれた。今回は寺本製靴(デルマー)、ボワニー商事、リチャード製靴など十三社が



秋の神戸靴展会場

出品した。この秋・冬の傾向としては、木型が細くつま先がシャープで女らしいデザインのものが多く、色はグレーや紺が主流。

★神戸に世界中の輸入品を集める「神戸輸入品卸売センター」が設立

「貿易ビル」(生田区東町)、「第一協業ビル」(大阪)に続いて貿易協業株式会社(本社生田区、長井多三郎社長)が葺合区磯辺通(フラワーロード)「神戸輸入品卸売センター」を建設することになった。これは、輸入品専門の卸売

業者五十社を一堂に集めるもので、これによって国際港都神戸の名に恥じないような世界各国の輸入品が何でもそろい、合わせて卸売業者の経営の合理化、販路の確立を狙い、また、小売業者にとっても便宜がはかれるようになっていく。来

### ★甲南漬本舗が

旧本店を新装オープン  
甲南漬でおなじみの「高嶋酒類食品株式会社」(本社東灘区、高嶋平介社長)の旧本店が七月二日、十年ぶりに新装オープンした。場所は国道43号線をはさんで本社の山側。

この店舗は、同社の前身高嶋平介商店の二代目の本店として大正11年に開店したもので、当時の阪神電車東明駅前に建てられたが、昭和41年に閉鎖したもの。

新装とはいうものの、当時の雰囲気をよく残している。これまでは本社の売店で販売をしていたが、国道より北側の人には足の便が悪く、また、販売面積の関係から、目の前で商品を見ながら注文をすることが出来なかったのが、今回の再開は仲々の評判だということだ。



落ち着いたたたずまいの店内

### ★ KOBE オフィス レディ ★



山田 智子さん (21才)

株式会社ファミリア本社商品部

爽やかな感じのスポーツレディ。テニス歴6年それとサーフィン。目下、ハワイでの世界選手権を目指し、グループと高知県まで遠征して練習に励んでいる。また、ダンスやおまつりも大好きだが、手あみや生花もやる活発さとしとやかさを合わせもっている。現在は部長つきの秘書。売り場へ応援に行くこともある。あらゆる方面で何でもやりたいという意欲満々。(市立神港高校卒業)

同社では本社売店での販売のウエイトを序々に減らし、本店での販売に力を入れる方針である。

月刊神戸っ子15周年記念

# 神戸文学賞 神戸女流文学賞 設定

## 〈設定趣旨〉

このたび小社は神戸文学賞および神戸女流文学賞を創設いたしました。有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動のいっそうの発展のために微力を尽したいと願っております。ここに第一回文学賞を公募するにあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに、清新かつ強力な作品の出現を期待する次第であります。

## 〈募集要項〉

一、神戸文学賞は男性作品、神戸女流文学賞は女性作品とし、共に西日本在住者に限ります。

一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限ります。

一、原稿枚数は四百字詰百枚前後。

一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度のあらすじをつけて下さい。

一、締切りは九月一五日（当日消印有効）

☆なお、選考は本誌が依頼した選考委員によって行います。

一、入選発表は本誌十二月号誌上。昭和五十二年新年号より作品を掲載します。

一、原稿の返却、選考経過などに関する問い合わせには応じかねます。

一、入選作品の著作権は本誌に属します。

一、入選作品各一篇には副賞として賞金二十拾万円が贈られます。

一、原稿の送り先、お問い合わせは、神戸市生田区東町一三の一 大神ビル七階 月刊神戸っ子「神戸文学賞係」まで。

電話〇七八―三三一―二二四六

主催／月刊神戸っ子

そう、あまりに光あざやか

夏



顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

**服部メガネ店**

神戸・大丸前 TEL 331-1123



きものと細貨

**おんがら屋**

神戸 本部・仕入部 神戸市東灘区青木五丁目一五〇一九 電話〇七八四五一五二九〇(代)

本 店 市街地改造により工事中 昭和五十二年未定 昭和三十二年未定 昭和三十二年未定 昭和三十二年未定

さんちか店 神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八三三三二一七〇〇

銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八二〇 電話 〇三三三七三三二九八(代)

渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話 〇三四七七三三〇九(直)

日本橋東急店 東京都中央区日本橋通一丁目九二 電話 〇三二二一〇五一(代)

池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋一丁目二八二 電話 〇三三九八七〇五六一(直)

(四階きもの小路) 電話 〇三三九八七〇五六一(直)



●特集

KOBE GOLF 70年



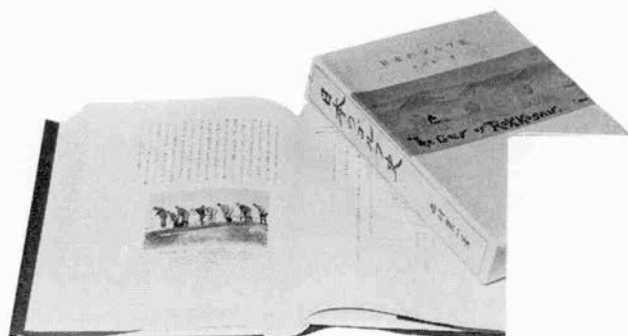
〈1〉対談／日本のゴルフ史復刻を語る

# バラケツが創るゴルフ史

松島 雄一郎 (『ゴルフクラブ』編集長) 西村 雅司 (『西村雅真研究所所長』)



故西村貴一氏



左：『日本のゴルフ史』  
右：『A BIBLIOGRAPHY OF GOLF』



西村雅司さん



松島雄一郎さん

★西村旅館の副産物

松島 「日本のゴルフ史」復刻記念パーティでお父さんがあれだけの人を集めるということは神戸の土地柄かな。東京ではああいう集まりはまた感じが変わりますね。

西村 材料がいろいろってことですよ。一番大きな事です。

良い親孝行をしたといってもらいましたよ。

松島 今日日は「神戸っ子」の対談ですが実は僕は僕も神戸っ子でしてね。あなたの父さんは偉い神戸っ子でしたね「日本のゴルフ史」という本は大変なものだと思いますよ。日本のゴルフが六甲で始まったことだけを威張ってもしかないんですよ。この本で記録がちゃんと残っていることに意味があると思うんです。

西村 オランダやフランスでもないようですね。

松島 日本は明治三十六年に始まっているんですが、始球式で一瞬しか飛ばなかったなんてことまでちゃんと載っていますよ。

西村 オヤジは執拗ないわゆるしつこい人間ですが、面白いと思うのは、片面では非常によく遊んでいたオヤジがもう片面では静かに物事を学究するという両面性をもっているんですよ。今、オヤジの死んだ後でもいろんな人から昔のオヤジの悪行を聞かされますよ。(笑)

松島 僕は「西村旅館」にとっても興味をもっているんです。いろんな一流人物が泊って、一流の人々と常にお父さんは耳学問で接していたんですね。

西村 面白いエピソードがありましてね。隣の旅館が売りに出たとき、母親は買おうとしたんです。当時十三部屋で、母親は買えば部屋数が増え、もうけも多くなるという単純計算をやったんですよ。ところが父親は「やめてくれ、十三部屋を八部屋に減らしてほしいぐらいだ」っていうんですよ。一日二十四時間のうち八時間は寝、八時間は自分のために必要で、あとの八時間を商売のために使う。だから一時間に一流人物に一人会っても八時間しかないのです。十三部屋でも多すぎるぐらいだ。

松島 今の商売もそんな風にしてほしいなあ。

西村 この考え方だけは徹頭徹尾死ぬ迄変わらなかったですよ。

松島 一流の人々の言葉を聞いて大いにプラスされるというところがあったんじゃないですか。

西村 戦後、焼け跡にもう一度西村旅館をオヤジは建て

ると言ったんですが、私は神戸でやることには反対なんです。当時だと淡路や四国の船客関係で客層が落ちますからね。もし旅館をするなら東京か大阪でやろうと言ったんですが、この神戸の土地は先祖から預ったもので他には住みたくなかない言うので、それなら「宿泊設備をもたない西村旅館です」といえる「ヘチマ倶楽部」をつくったんです。

松島 「日本のゴルフ史」は素晴らしい本ですが、本当の西村旅館の神髄は、明治から大正・昭和の初期、ヨーロッパへ行くといつては御厄介になり、帰ってきてはまた御厄介になるそうした行き来する様々の文化人が記録されていることですね。大きなあこや貝のような「西村旅館」というものからポトツと落ちた真珠がこの「日本のゴルフ史」ですよ。西村旅館の副産物ですね。

西村 確かにそうだと思います。何故神戸から生まれたのか。それが実際神戸に残ったものであり、一番文化的エッセンスの高い、知恵でも習慣でもないものの表現があるんじゃないかな。

松島 理屈では生まれてこないんだよね。

西村 神戸の風土があるのかな。汽車に乗ってきた客を世話して船に乗せてあげる。オヤジが「オレは交通機関のジョイントなんだ」と言っていましたね。

松島 そうなんだ、ジョイントなんだな。

西村 そういうことに權威をもっていたんですよ。仕事ぶりを聞いていても、とても面白いですよ。

松島 神戸じゃ「バラケツ」って言葉があるでしょう？

西村 そうそう、ありますよ。

松島 不良少年というのが、私は神戸のバラケツっていうものは単なる不良少年じゃないと思う。貫一さんっていうのは一種のバラケツっていうのかな。バラケツって悪い言葉だけど、軟派と硬派っていう言い方も加えれば、硬派のバラケツ精神をもった人やないかな。偉そうにしている人間がひとつかましてやろうかなという具合でしょう。神戸はバラケツが一番面白い。



▲大正12年頃の西村まささん  
(横屋ゴルフ・アソシエーションにて)

◀大正14年頃の西村貴一氏 (横屋ゴルフ・アソシエーションにて)



▲大正初期の西村旅館

★やっと目の目をみた「ビブリオグラフィ」

西村 この「日本のゴルフ史」の原稿が驚いたことには  
オヤジが三十八才の時に完成して出版しているんです  
よ。こちらの長つたらしい題名の「A Bibliography of  
Golf based on the Compiler's Private Collection of  
Golf Literature」は四十三才の時に完成しているん  
です。

松島 世界のゴルフに関する文献目録の集大成であって  
西村貴一さんが全て読み、目を通したものでしょう  
う。

西村 ええ、これは百冊印刷して、五十冊を国会図書館  
に配布の目録をつくってもらって、世界の著名図書館に  
献本したんですよ。それから西村旅館を通じてみた明治  
大正・昭和の文化史も、十年位たって、四十七、八才の  
ときすでに原稿用紙千枚にまとめてあるし、若いときに  
そういうことをビシヤツとやっている。出版したいとい  
う気持ちは絶えずあったようですが、「A BIBLIO  
GRAPHY OF GOLF」の出版には日数と費用  
がすくくかかるんですよ。何しろ記号がすくく多くてX  
を一つ間違えただけでミスプリントになるんです。この  
本の最初の方に印されているように約束ごとがたくさん  
あるんです。完全に知っていなければこの記号の向き一  
つで意味が変わってしまうんですよ。

松島 校正なんかも、四、五回はしないとイケないだろ  
うし、時間がずい分かかりますね。

西村 父のこのビブリオグラフィのお手伝いをして下  
さった中島涼さんが校正にかかる時間を計算したら三年  
かかる。費用も莫大なものになるし、そんなに売れる本  
でもない。「出したいなあ」と言いながら、原稿が完成  
して今日まで、四十二年間家の書庫で眠っていた。その  
うち親父は死んでしまうし不幸なことにはうちはメスば  
っかりで、西村家生き残りの男一匹といったら僕のこと



なんです。家のアブラ虫までメスなんだと思いますよ。

(笑)

松島 雅司さんのお元氣な間に出版しておかなくてはというところですね(笑)

西村 幸に親父が指一本で打った原稿が、一定の用紙でサイズが同じだったことと、最近の写真製版の技術の簡易化のおかげで、コピーを取るのと同じ方法で、原稿から直接印刷の版が取れることができた。これによって活字をひろうことによるミスと、校正に要する三年の時間が一挙に省略できた。

ビブリオグラフィを印刷して、父の友人の明治文化研究会会長の木村毅さんにお見せしたら「実はこの本は一生の目を見ん本やと思つた。原本一冊をどうしようかと、貰一さんの書いた原稿を写真にとつておくという方法しかないと思つたのに、お前よう出したよったな」といつてほめてくれたんですよ。



出版記念会風景 (6.29.オリエンタルホテル)

# ★風俗史をかねたゴルフ史

松島 私は出版計画中の西村旅館文化史の記録の方も大変なものだと思つてます。何度か見せてもらいましたがね。

西村 小説家のタネ本としての価値もありますが、それ以上に明治・大正・昭和という三時代に亘つての神戸の人物交流史という、わが郷土の文化史的な価値が高いので僕は何とか出版したいんです。このままだと何年何月

誰がどこへ泊まったという点だけで、時代背景が全然書いてないのでその肉付けがほしくて木村先生にお願いしたんですよ。

松島 明治・大正・昭和を通じて書けるのはあの方くらいでしょうね。僕もあれは絶対に肉付けしたものが必要だと思ひますね。神戸っ子として是非やつてほしいです。話は「日本のゴルフ史」にもどりますが、ゴルフ界では、この西村さんと伊藤長藏さんが二大奇人だったんですね。ともに神戸っ子です。バラケツ精神をもつていたんですよ。西村さんは記録しないといかんと気が付いて、やりだしたら凝る人だから、日本のゴルフの始まりは英国人によつて行なわれ云々と、すっかり調べ上げた。これがなかったら日本のゴルフの初まりは全然わからなかった。それに珍しい写真が沢山あるし、六甲山に登るカゴの値段が何銭何里といった風にゴルフの歴史だけでなく、避暑地としての六甲を通して風俗史というか文化史的な値うちがあるね。

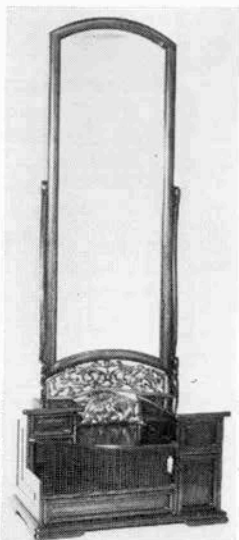
西村 摂津茂和さんが讃辭してくれるのは、本当の歴史の本の書き方の見本を示しているからだと言ひます。松島 美文では何にもなりませんね、後世の人には。具体的なきが書かれていなかったら全然面白くないんですよ。事実を連ねている歴史の本としては大変貴重です。

西村 「たぶんそうであろう」ってことは一切書かなかつたんですよ。

松島 僕は新聞記者でしたが、調査不十分な記事だと美文を書いてしまうんですね。充分な材料があれば並べ方だけを考えればいいですから人に喜ばれますよ。その点、充分な調べがあつて単なる日本のゴルフだけでなく風俗史でもあるところに「日本のゴルフ史」の値打ちがあると思ひます。

△オリエンタルホテルにて▽

# 美術骨董 古美術 剣書 刀画



一六五、〇〇〇円

総紫檀姿見／引出両用／一三五cm

鑑定 買入

刀剣研磨その他工作

一ヵ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀古骨

剣美術  
骨董

元所美術

〒650

TEL078-351-0081

# アイスクリーム



# ビロウドの味

〈125ml ￥200～960ml ￥1200〉

フランス風の手作りの味。さんちか茶寮、本店喫茶室では、特製のサンドアイスクリームを、御進物・御家庭には容器入りを…。



神戸風月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎(078) 391-2412